

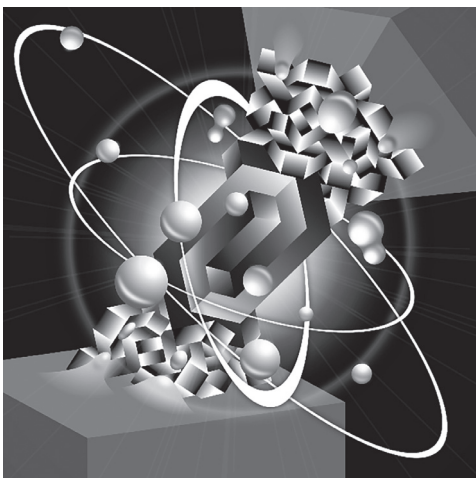
「技能と技術」誌表紙デザイン 最優秀賞受賞者インタビュー

「技能と技術」誌 編集事務局

1. はじめに

本誌では、例年、本誌に対する意識の高揚とデザイン教育の振興を目的とし表紙デザインコンテストを開催しています。本コンテストは、全国の職業能力開発施設のデザイン系学科の方を対象とし公募しております。そして、応募いただいた作品の中から優秀な作品を選出し、その中で「最も優秀」と評価された作品が、翌年に発行される本誌の表紙を飾ることになります。

本年度の表紙デザイン選考会（令和4年11月開催）では、長野県長野技術専門校 画像処理印刷科の高橋清椰さんの作品が最優秀賞に選出され、本誌第4号（令和4年12月発行）にてお知らせしたところで



令和5年「技能と技術」誌表紙デザイン
最優秀賞作品

本誌編集事務局では、最優秀賞作品を生み出したコッを知るため、3月某日、晴天に恵まれた中、同校を訪問し、高橋さんおよび画像処理印刷科の鹿住先生へのインタビューを行いましたので報告します。

2. 長野県長野技術専門校 画像処理印刷科

同校は、昭和21年に職業補導所として長野市内に建築科のみで発足しました。現在の技術専門校となったのは、昭和53年からです。



長野県長野技術専門校の外観

画像処理印刷科は、昭和35年に活版印刷科として定員30名で設置され、その後、昭和46年に製版印刷科、平成5年にグラフィック・デザイン科に改称された後、平成13年から現在の画像処理印刷科となりました。定員は昭和49年に20名となり、現在の15名は平成25年からです。

かつて印刷業は地場産業として長野市の一大産業

でありましたが、関東大震災や戦時中、当地が東京など大手印刷工場の疎開地となり、戦後もそのまま残ったことなどが背景にあります。

しかし、少子化の影響や業界の景気動向等に連動して、近年は、入校志願者数の減少傾向が続いており、それに伴い入校者数も10名を割る年が出るなど、志願者増加対策が課題となっている現況です。

高橋清椰さんが学んでいる画像処理印刷科は、印刷関連産業への就職を目指して、以下の技能や関連知識を学んでいます。

- ・最新のコンピューター（Mac）による、印刷物の原稿やデザイン、写真の加工方法の習得。
- ・ポスターやイメージキャラクター等の公募作品の制作を通して、実践力の養成。
- ・Illustrator, Photoshop, InDesign等のDTPソフトの操作と関連資格の取得。



画像処理実習

- ・最新のオフセット印刷機で、多色印刷の基本的なオペレーションの習得。
主要な設備は、
- ・パーソナルコンピューター（iMac 27インチRetina 5kディスプレイモデル）
- ・カラーレーザープリンター（Canon imagePRESS C165）
- ・ソフトウェア（Adobe CreativeCloud グループ版（Illustrator, Photoshop, InDesign 等））
- ・オフセット印刷機（小森コーポレーションSPICA 26P 等）
- ・CTP（大日本スクリーンPT-R4300E）



オフセット印刷実習

指導面では、デザイン事務所やスタジオの経営者、コピーライターなど多彩な外部講師を招き、現場に即した課題を与えるなど実践力を重視したカリキュラムとなるよう工夫を重ねています。その結果、内閣府主催のポスターコンクールで大臣賞を取るなど成果も表れています。



第25回 防災担当大臣賞



第26回 防災担当大臣賞

資格取得については、(株)サーティファイ主催の「Illustratorクリエイター」「Photoshopクリエイター」「Webクリエイター」の各能力認定試験の合格を目指しており、スタンダード級については、合格率は例年100%です（再試験合格者を含む）。

3. 受賞者インタビュー

本年度の表紙デザイン募集には全国から108点の応募があり、厳正なる審査の結果、高橋清椰さんの作品が最優秀賞に選出されました。

訪問当日には、ご多用の中、町田校長をはじめ、有澤訓練課長、画像処理印刷科担当の鹿住先生にも出席いただき、校長室をお借りしまして、ささやかながら表彰式を行わせていただきました。



左2人目より町田校長、最優秀賞の高橋清椰さん、有澤訓練課長、担当の鹿住先生

その後、高橋清椰さんにインタビューを行いました。緊張しながらも、作品について熱く話していただきましたのでご紹介します。

—最優秀賞を知ったときの率直な感想を教えてください。

つくるのに時間が本当に長かかったので、やり切った感がすごかったです。それを評価してもらえたことがうれしかったです。

—最初にどなたに受賞を伝えられましたか？

受賞を聞いて、すぐに両親にLINEで伝えました。両親も大変喜んでくれて、「技能と技術」誌を大量に買い占めたいと言っていました（笑）。周りのみんなも素直に「すごいね！」と褒めてくれたのでうれしかったです。

—この作品を作る中で苦労した点を教えてください。

苦労した点はたくさんありますが、特に球体のつなぎ目のところが一番苦労しました。液体のようにつながっているように表現したく、また立体から立体が出ているので、つなぎ目のバランスや影のつけ

方を何度も調整しました。

—受賞してからの心境の変化はありましたか？

今回受賞できたことは自分の中で特別な事であり、自信にもつながりました。ちゃんとやり遂げたものが、形になり、選ばれたということが大変うれしくて、「やってよかった」と思いました。デザインに触れて、デザインをやりたいという思いがさらに強くなりました。

—元々、デザインをしたりグラフィックソフトを使ったりされていたのですか？

使ったことはまったくありませんでした。表紙デザインを応募した時で、使い始めて4カ月ぐらいでした。

学校の授業でillustratorやPhotoshopを勉強した後、ロゴのコンペがあったのですが、自分の考えが具現化していくことが楽しく、家に帰ってからもずっと作業をしていました。

—長野県長野技術専門校に入学したきっかけは？

元々、印刷関係の仕事に就きたかったので、強みになると思い、体験会に参加しました。その時のデザイン体験がすごく楽しく、受験を決めました。

—学校生活で感じたことは？

訓練校なのでクラスにさまざまな年齢層の方がいます。今までは社会の話は両親ぐらいとしかしなかったのですが、社会人経験を持った方とお話できることは社会に出たときに大事なことだと思います。その心構えができる貴重な時間を持っています。

授業においては、自分がイメージしていた印刷の仕事と実際に行う作業が全く違っていて、作業には正確さが重要な仕事であることがわかりました。これも学校に入って知ることができたと思います。



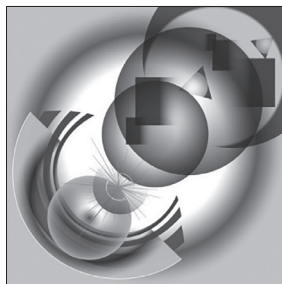
インタビュー風景

—貴校は以前にも入賞者を出していらっしゃいますが、やはり創作しやすい学校の環境やカリキュラムなのですか？

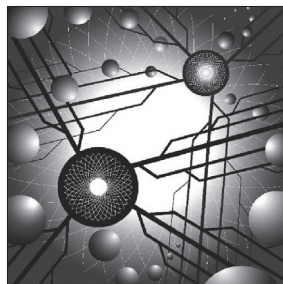
自分で時間を作ろうと思えば、朝早くから昼休みも学校を利用させてもらうことができました。

先生方にはたくさん質問をしました。質問しやすい環境を先生方が作ってくださっているところが大きいのではないかと思います。

自分は先生方を独り占めしたいと思うほど、質問をしていましたので、対応してくださった先生方に感謝しています。



平成23年度 最優秀賞



平成30年度 最優秀賞

長野県長野技術専門校における
これまでの表紙デザイン入賞作品

一次に、「技能と技術」誌の表紙デザインを作り上げていくコンセプト設定やプロセスについてお伺いします。

まずは、「技能と技術」誌をご存じでしたか？

見たことはなかったです。入学してから応募するにあたり、一通り見てみました。また、画像検索などをして、これまでの「技能と技術」誌の表紙がど

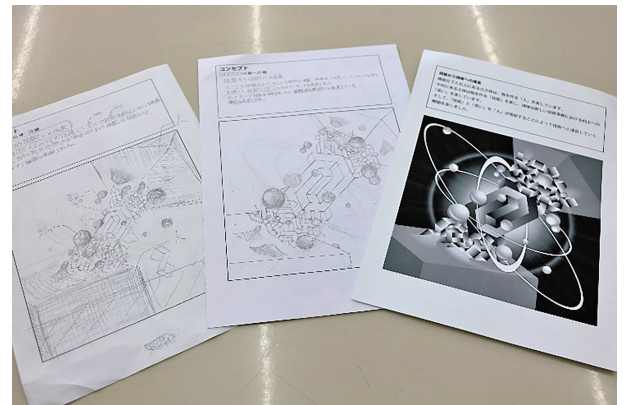
のようなコンセプトで作成されていたのかを調べました。

—表紙デザインに応募したきっかけは？

授業の一環で応募しました。ただ、その前からデザインに力を入れたいと思っていたので、応募が自由だと先生に言われたとしても参加していたと思います。入賞したらネットに載ることはメリットがあると考えていました。

—今回の作品のコンセプトは？

「技能と技術」誌のコンセプトからポケモンや妖怪ウォッチのような『進化』するというイメージが浮かび、それをコンセプトにしました。進化の瞬間（＝卵からふ化し成長する）を表現するには、どうしたらいいか考えました。球体（思い）と多角形（技能）が結び合うことによって立方体（人）が『進化』していくことを表しました。自分は、作文などを書くのが苦手なので、同じような人に視覚的・直観的に伝わる作品を作りたいと思い、これを表現をすればこう伝わるのではないかと考えながら作り上げていきました。作り上げていく過程は、すごく楽しい作業を行えました。



ラフプランから完成版までの過程

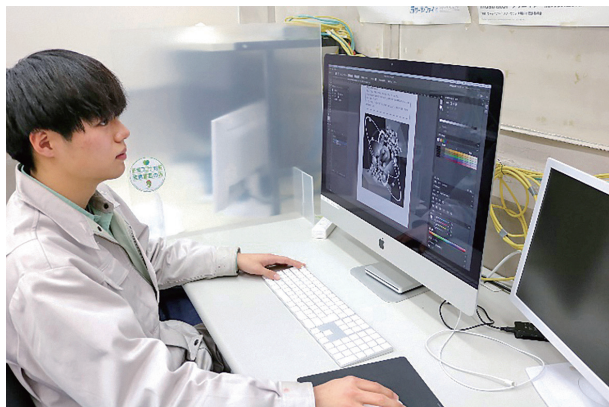
—作品を作り上げていくプロセスや作業の中で感じたこと・工夫したことは？

デザイン概論の授業の中で、構成を考えるときのバランスや表現の仕方を教えていただいたことは、大きかったです。特に無理図形について授業は今回

受賞できた大きな要因だと思っています。

自分のコンセプトを表現するには無理図形を使用することが必須だと考えていました。ラフプランを作成していきIllustratorで作成していく過程で、ソフトの使い方は学んだのですが、無理図形を描く技術がなく苦勞しました。既存のツールでは作成できなく、思った形にならないために、角度の調整とトレースや影のつけ方を自分が今できる技術で何度も試作しながら作り上げました。また、明暗をはっきりつけないと印刷などではぼやけてしまうと先生にアドバイスを受け、グラデーションの配置には苦勞しました。表紙デザインはWeb上だけではなく印刷をしたときにどのように表れるのか、白黒印刷とカラー印刷の時にどのように印刷されるのか、何度も確認しながら仕上げていきました。

本当に時間をかけて苦勞はしましたが、自分が納得いく作品に仕上げることができたと思います。



実習中の高橋さん

—最後に高橋さんから一言お願いします。

これから表紙デザインに応募される方は自分がわからないことや困ったことは先生に聞くことが大事だとおもいます。今まで見てきたデザインの数も圧倒的に自分とは違うので、デザインの基準を教えてもらうことは大切な事です。自分が受賞できたのは、本当に指導していただいた先生方のおかげだと心から感謝しています。ありがとうございました。

おわりに

実習中にもかかわらずインタビューを受けていただきありがとうございました。インタビューを通して高橋清椰さんの作品に対する熱い思いと作品通りのイメージの人柄を感じることができました。なお、本年度の最優秀賞の作品については、審査員からポスターとしても優れているとのコメントをいただいたため、本年度開催の職業能力開発論文コンクールのポスターにも採用されます。